

友達や先生の支えで目標を再発見

私は、愛知県立横須賀高等学校校定時制卒業生で現在、私立大同大学の情報デザイン学科というところで、映像、web、サウンド、3DCG、製品制作といった様々なデザインの勉強をしています。

順風満帆に見えそうですが、私は小中学生の時に、いじめが原因でかなりの長い期間不登校を経験しています。今回は恐縮ながら私の経験をお話しさせていただきます。皆さんが少しでも進路や将来を考える上での参考にしていただけたら幸いです。

私は小さい頃から楽器を弾くことが好きで、さらにオーケストラからEDM、はたまたゲームサウンドなどの曲も大好きで、いつかは音楽に携われる仕事に就きたいなどおぼろげながらも考えていました。しかしいじめがきっかけで、そんな目標もどっかに吹っ飛んでしまいました。

最初のいじめは小学一年生のときで、中学終わりまで続きました。殴られたり、蹴られたりなどのバイタルなものから、暴言や私物を隠されたり汚されたりするな

どのメンタルなもので、最終的に足を骨折するレベルに達しました。小学校まではそれなりに休みながらも無理して学校に行っていました。小学校高学年になると、トラウマで毎日吐くような毎日を過ごしていました。中学校に上がると思春期と反抗期も相まって全く学校に行かなくなり、ずっと家にひきこもって、学校からの電話におびえる日々を過ごしていました。次第に人間不信になり、生きている意味も分からなくなり、家族に当たることも多くなりました。

そんな中、中学生の時に趣味だったピアノの演奏を罵倒され、ピアノを人前で弾けなくなりそうです。ここで自分の進路を完全に見失ってしまいました。ちなみに今もずるずると引きずって弾けないままです。自分の中で楽器を弾くこと、音楽を聴くことは心の支えになっていたのだと、振り返って感じました。

さて、中学三年生になったころ、担任から勧められたのが横須賀高等学校定時制。高校には行ったほうが将来につながることはわかっていたので、受かったら頑張ろう程度の気持ちで願書を出したのを覚えています。そのくせに受からなかったらいつそ死んでしまおうとも考えていました。受験の問題は定時・通信制用の問題で、あまり難しくなく、そのまま合格することができましたが、進路も定まらない、あ

やふやな気持ちのまま高校に入っていくことになります。

高校は非常に通いやすく、毎日行けるようになりました。家からも近く、夜間であること、そして給食があつたので夜ご飯を食べに行くみたいな気持ちで学校に行っていました。勉強面も本当に初歩の段階からステップアップしていくようなカリキュラムで、かつ就職活動に役立つような教え方だったので、非常にわかりやすかったです。テストでは首席を何回も取れてモチベーションにつながつたのも覚えています。またこの学校は本来四年で卒業するところを、日曜日に通信制の高校に行くことで、三年で卒業できるようにするコースがあり、二年生から三年生の間に大変だあと思いながら、同じコースになった友達と一緒に協力しながら日々を過ごしてきました。日々の高校生活の中で先生方や友達との交流を経て、本来持っていた明るい自分が戻ってきて、次第に前向きに進路を考えるようになりました。

そして高校三年生、進路を決める時期に「楽曲の制作ができる学校に行きたい」という目標ができます。やっぱり自分は音楽が大好きで、楽器は弾けなくなつたけれども、楽曲を制作することはできるかもしれないと考えるようになったからです。そこで担任の先生とあれやこれやと相談した結果、私立大同大学の情報デザイン学

科というところを見つけます。そこは包括的にデザインを教えている学科で、サウンドはもちろん、映像やCG、デッサンなどが学習でき、メディアコンテンツが好きな自分にはぴったりだと思い、先生に進路志望を伝えて受験に挑みました。受験の形式は「総合型選抜」というもので、筆記試験ではなく課題制作と面接で合否を決めるタイプのものでした。首席は取れていたものの、学力面では心配だったので、このような形式があると知って少しばかり希望が持てたのを覚えています。合否は郵送で送られ、「合格」の文字を見たときに、ほっと胸をなでおろしたのは印象深い思い出です。

今は給付型奨学金をもらいながらアルバイトをして、大学で自分のやりたいあれこれを学びながら、意義のある生活を送ることができています。いじめをうけて目標を見失っていた小中学生でしたが、高校で家族や先生、友達などの支えもあり、なんとか目標をまた見つけることができました。